イギリス小出版社アンケート調査とその結果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2012-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 昌宏 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/12306

イギリス小出版社アンケート調査とその結果

辻　　昌宏

イギリスの出版社のうち，詩をあつかっている出版社は大手が少ない。そのことに気がついたのがきっかけで，イギリスの小出版社とくに詩の雑誌や詩集を出版しているものにアンケート調査を実施した。以下に述べるのは，調査を思い立つに至った経過と，調査の目的，具体的な実施方法，実施過程，アンケートの質問およびその集計結果，そうして補助に関するアーツ・カウンシルの方針についてである。

1．アンケート調査を思い立つに至った経過

イギリスの詩を読んでいるうちに，聞きなれない出版社に出くわすようになった。こちらが無知なのだと言えばそれまでだが，日本の大手洋書販売店にもほとんど一冊も置いてない出版社がいくらもあるのだから，ある程度は仕方のないことなのだ。そもそも日本の洋書店には現代詩のスペースはほんのわずかしかない。無きに等しい店も多いのである。まあ資本の理論から言えば，売れないから置かないということになるのであろうが，置いてないから新たな読者が育たないという面もすこしはあるのではないかと思う。

ともかく現代詩を読み始めると，マイナーな出版社，資本の小さい，売上げも少ない，働いているスタッフもせいぜい数人という出版社（以下小出版社と呼ぶが，小出版社の定義，自己イメージについては後述する）と付き合わざるを得なくなるのである。こういった有名でない本屋は他にどんな本を出してい

るのだろう？どれくらいの規模の会社なのだろうか？利益は上がるのだろうか？そもそも詩集や詩の雑誌はどれくらい売れるのだろう？といった疑問が次々に未整理の形で浮かんできた。そんな時に，こちらの興味をおおいに刺激したのが，アントニー・スウェイトの『今日の詩――イギリス詩への批評的入門1960―1980』とマーティン・ブースの『イギリスの誌1964―84バリケートを突き抜けて』である(註1)。スウェイトもブースも詩人兼批評家兼編集者であり，詩をめぐる出版業界の内部事情に明るい。スウェイトは『今日の詩』の最終章を'The Poetry Business'としているが，引用符が付いているのは，ブレイク・モリソンのエッセイからの引用であるからだ(註2)。ブレイク・モリソンも若手の詩人・批評家・編集者である。彼の記事は'Poetry and the Poetry Business'というもので今日のイギリス詩の経済状態を，実際に産み出されている詩との関係において考察したものであるという。つまり，詩の出版，流通，書評，売れ行きと，現代のイギリス詩をだめにしているさまざまな要因との間に関係があるかどうか，ということだ。もっと大雑把に言えば，経済的な側面が，実作に与えている悪影響があるかどうか，ということになる。たしかに60年代のブームは主として経済的な理由で，第一次石油ショックのために，終わりを迎えた。ペンギン・ブックスはペンギン現代詩人という定期刊行のシリーズを打ち切った(これは今も絶版になったままである)。代わりにジェフリー・ヒルなどを'King Penguin'というシリーズで出しているが，こちらはずっと散発的なのである。ほとんどの商業的出版社（この言い方は日本では耳慣れないかもしれないが，小出版社の中には採算に乗らないことを覚悟に上で経営を続けているところが多いのでそのことを踏まえると意味がある。商業演劇という言い方は日本でもよく使われているものであり，それとパラレルに考えられるだろう。)は，詩を出版する方針を持っていないか，あるいはそういう方針を放棄してしまった。例外として，スウェイトは，Faber，Chatto&Windus，Oxford University Press，Secker&Warburg をあげている。これを60年代に詩を出していた主な出版社と較べてみよう。ブースによれば，Macmillan，Faber&

Faber, J.M.Dento, Routledge&Kegan Paul, Oxford University Press と他にいくつか，だったという。両者の間には約20年が経過しているわけだが，継続してどちらにも名前があっているのはFaberとOxford University Pressのみである。ただし，この間にマンチェスターのCarcanet Pressのように，詩を専門とし，もはや小出版社と言えないほどに成長した出版社もある。しかし概して，詩のほとんどは，商業的出版社よりも，リトル・マガジンが広い底辺を形成しているのである。それなら，そのリトルマガジンをだしいている小出版社はどのような存在なのか。誰が，どうやって経営しているのか，という関心が当然起こってくる。そのことをかなりブースが書いているのだ。ブースによれば，一人か二人で経営し，自分の信念に従って，詩集や詩専門の雑誌を出版しつづけている人が各地にいるのだ。その人達は，収入は他に職業を持ち(教師，運転手，医者など職種は様々)，それゆえに自由な出版活動が出来るというわけだ。この言わば草の根的な存在に興味を持って，この小出版社を中心に少し詳しい情報を得たくなり，自分でアンケート調査に乗り出したわけである。

アンケートというものは，僕にとっては，調査の対象となったことこそあるものの，作成したことはこれが初めてである。どうやったらよいものか，と社会学の本をぱらぱらとめくっているうちに次第にわかってきた（ような気がする)。もちろん，素人の生兵法であるから，誤解や勝手な思い込みも少なからずあろうと思う。誤りのご教示をお願いする次第である。ともかくも，僕の理解できた範囲で書くと，アンケート調査というのは，社会調査とよばれるものの一手法である(註3)。つまり，社会科学では自然科学のように実験ができる領域は非常に限られているから，観察という手法によってデータを収集しそれを分析・解釈するということになるようだ。歴史的に見れば，社会調査には四つの系統があるという。1．行政的な調査。われわれにも国勢調査などでおなじみである。2．社会事業的な目的の調査。18世紀後半の刑務所改革のための調査や，19世紀ヨーロッパにおける労働者家族の調査などがある。これらの調査

では，単に統計的なデータが集められただけではなく，面接やアンケート調査をつうじて多角的に事象がとらえられた。3．19世紀以来新聞社・出版社等により世論調査や市場調査が行われるようになった。現在一般的になった無作為抽出法がこの分野にとりいれられたのは，1940年代の終わりになってからであるという。4．研究調査。ぼくの行ったものも，しいて分類すればここに入る。以上が研究目的別にみた4つでこの順番に歴史的に発展してきたとのことである。またさらに，実際の調査方法も多岐にわたる。大きく分ければ，統計的調査と事例的調査がある。統計的調査とは，対象となる社会事象に関して，データをもとに統計をつくり，そこに規則性を見出だす方法である。事例的調査は，ある単位（家族，地域）を集中的に多面的に観察する方法である。僕が行ったアンケート調査は統計的調査の一つであるわけだ。アンケートのことは調査票とか質問紙と訳されている（註4）。

文書によって質問し答えてもらう場合(自計調査)，アンケート用紙を質問紙とよび，口頭で質問し口頭で答えてもらう場合(他計調査)，アンケート用紙を調査票とよぶのだそうだ。僕の場合は，もちろん前者に相当する。さらに文書によって問い答える自計調査には，三種類がある。1．配票調査，2．集合調査，3．郵送調査である。

配票調査とは，質問紙を配付・依頼し，数日後に調査員が回収する方法である。国勢調査にはこの方法が用いられている。集合調査とは，被調査者全員に集まってもらい，そこで質問紙を配付し，記入してもらう方法である。実際には，企業従業員の意見調査などに用いられているという。郵送調査は，読んで字のごとく，質問紙を調査する対象（被調査者）に郵送し，記入した後，返送してもらうという方法である。

僕の場合，実際に現地におもむいて，何人かの人に直接インタヴューし，実状や問題点をつかんだうえで，多くの人数に対するアンケート調査を併用すれば，いっそう望ましかったであろうが，種々の制約からそのことはならず，アンケート調査だけを単独で実施した。

この郵送調査には，それに伴う長所・短所がある。それを簡単に記しておこう。長所は，被調査者が記入する自計調査には一般にあてはまることだが，調査者の個人差によって偏りがほとんどない。僕の場合は，調査を一人で実施しているわけだから，このことはあまり関係がない。もう一つの長所は，広い地域に調査票を配付することができるという点だと，福武直著『社会調査』にある。まさにその通りなのであるが，僕はとくに遠隔地に配付することができるという点を強調したい。つまり，日本にいながらにして，外国のことを調べるのには，既に著作や雑誌論文になっているものを読むか，他人に調査を依頼するか，自分で質問紙を郵送するかしかない，と思われる。(まあしいて言えば，もつ一つ電話という手段があるが，費用の点では，郵送の方がずっと有利である)。短所といえば，最大の問題点は回収率の悪さである。これは，どんな本にも書いてあるし，常識で推測してもそうなる。しかしながら，幸い，僕の調査では，回収率が58％と大変高かった。一般には，30～50％といわれているのだから，反応の良さがおわかりいただけたよう。解答者に大いに感謝するしだいである。郵送法の第二の欠点は，質問をうまく表現しないと，誤解にもとづいた見当ちがいの答えしか得られないおそれがあること。第三に，記入もれが生じやすいことである。実際に，僕の作成したアンケート用紙は4ページにわたっているので，おのおののページにページ数を振っておいたのであるが，途中のページが全くの白紙，即ち，記入もれの人が何人かあった。その人たちは他のページには，選択肢に○を付けるだけでなくコメントまで手書きで書き入れているのだから，うっかりミスとしか考えられないのである。つまり，意図的なノー・アンサー（N.A.）ではないといってよいだろう。

2．調査の対象と目的

調査の対象は，イギリスの出版社のうち，詩に関わりをもつもの。即ち，詩集や詩の雑誌を出版しているものとした。そうすると，必然的に経営規模の小さな出版社が対象の中心となるので，出版社／出版者自身に自社／自分が小出版

社であるという意識があるかどうかを尋ねたりもした。目的は，一つではなく，多岐にわたるが，イギリスで詩を出版している人が，どのような形をとって出版活動を支えているのか。そこには，どれほどの多様性と共通性が存在するのか。小出版社（それをどう定義するかも，質問の一つであるが）の場合，採算はとれるのか，取れない場合，どうやってやりくりしているのか。公的援助（特にアーツ・カウシルの補助金）を得ているか。補助金一般に賛成か反対か，等々。まとめれば，詩を出す出版社が何を考え，どう経営しているのか，どれくらい補助を受けているのか，といったところである。

3．調査の実施過程

まず，1．2．で述べたように，郵送調査には固有の欠点がある。大きく分ければ，質問に対する誤解を生じる可能性と，より重要な返送率の低さである。

社会調査の研究書を参考にして，質問紙の作成にあたって注意したことを二，三あげておこう。

(1)質問数を増やしすぎないこと。

なぜなら，あまり長いと，回答者がいやになってしまい，結果として回収率が下がるからである。できるだけ，聴きたいポイントを絞ぼってきく。そのためには，なにが問題点であるか，あらかじめあたりをつけておく必要があった。

(2)自由回答のものと，選択肢から選ぶものを適当に配した。

なぜなら，選択肢のほうが，回答者にとっての心理的負担が少ないと，考えたためである。しかし，選択肢をつくるためには，予想される回答の範囲をこちらが把握していなければならない（もちろん，「その他」という選択肢も加えたが，適当な選択肢がしょっちゅう見当たらず「その他」にばかり○を付けるというのでは，回答者のやる気をそいでしまうだろう）。やはり，この点からも，あらかじめ問題の所在を把握することが最重要と思われた。

(3)質問を作成したあと，ネイティヴ・スピーカーにチェックしてもらった。

対象が，イギリスの出版社であるから，当然質問はすべて英語で作成する。質

問に不明な点があっても，回答者はその場で問いかえすことが出来ないのだから，出来るだけ明快な文章にしておかなければならない。そこで，辻が質問を作成した後，同僚のジョンソン教授にチェックしていただいた。ジョンソン教授からは，他にもいろいろと助言をうけた。この場を借りてお礼申し上げます。

(4)自己紹介を兼ねた手紙を添えた。

手紙といってもタイプ用紙一枚の短いものであるが，簡単な自己紹介とこの調査の目的を記して協力をお願いしたのである。

(5)返信用の封筒と，切手を同封した。

これは，返送してもらうのだから当然の処置なのであるが，国内のものであれば，切手を封筒に貼ってしまえばよいのだろうが，相手が海外の場合は一段階，手続きが増える。即ち，'coupon-reponse international'（以下「クーポン」と略す）というものを同封するのである。これの日本語訳は『スタンダード仏和辞典』によると，「国際返信切手券」ということになる。国際郵便の公用語はフランス語なのだそうで，'coupon-reponse international'もフランス語であるし，その説明もフランス語で書いてあり，裏面に小さな文字で，ドイツ語，英語，アラブ語，中国語，スペイン語，ロシア語の六か国語で同じ内容が説明してある。それによれば，このクーポンは，どこの国においても，外国へ出す郵便の最低料金に相当する切手にとりかえてくれるものなのだ。日本ではその料金は150円。これは，為替レートとは無関係に，外国便の最低料金であるから，結果としては随分割高である。つまり，同じ郵便を日本からイギリスに送るほうが，イギリスから日本に送るよりもずっと高い。その上，これは最低料金であるから，10g までの値段にすぎない。10g を越え，10g ごとに一定の料金が加算される。結局，一件に付き数枚ずつクーポンを入れたので，その費用はかなりのものになった。

4．質問紙

さて，さまざまな注意を念頭に置きながら作成したアンケートは次のようなも

のである。オリジナルは英語であるが，英語版のあとに，大意を記した日本語版をあわせて記す。

英語版

Questionnaire

I'm a lecturer of Meiji University in Japan and I am now investigating the activity of small or independent presses in Britain. I would appreciate your answering the following questions and sending the form back to me.

1. Does your company publish any magazine? If so, what kind of articles does it contain?

   a. Yes.

   (poems, novels, play, art, review, other)

   b. No

[To those who choose answer a.in No.1]

2. What is the main subject of the magazine

   a. poems　b. novels　c. play　d. art　e. review

   f.other (1.　　) (2.　　) (3.　　)

3. How often is it published in a year?

   a. monthly　b. biweekly　c. quarerly　d. bimonthly

   e. at random　f. other (　　)

4. How many subscribers do you have?

   (　　)

5. When was it first issued? And what is its average circulation?

year ciculation

6. Does it have advertisements? If so,what percentage is it of the total income?

a.yes ( ) % b.no

7. If you answer a.in No 6, who are the advertisers? (Answers can be plural.)

a.publishers b.bookshops c.other ( )

8. How many books have you published? Please answer according to genres.

a.poetry ( ) b.novels ( ) c.plays ( )

d.fine arts ( ) e.other ( )

9. How do you print the books and magazines?

a. your company's own printing machines b.your company consigns it to a printing office c.other way ( )

10. Mainly in what way do you print the books and magazines ?

a.letterpress b.offset c.filmsetting (phototypesetting)

d.other way ( )

11. How many full-timers and part-timers work in your company ?

full-timer ( )

part-timer ( )

12. Do you think of your company as a small press?

a.yes b.no

13. What is the main condition of a small press? Choose as many as you please in the order of importance.

a.smal capital ( ) b.small number of personnel ( ) c.small amount of sales ( ) d.other ( ) ( )

14. What are the advantages of a small press? Choose as many as you please in the order of importance.

a.an editorial policy which doesn't attach greatest importance to profit ( )

b.fostering budding writers ( ) c.free from outside pressures ( )

d.other ( ) ( )

15. What are the disadvantages of a small press? Choose as many as you please in the order of importance.

a.unprofitable b.agencies wouldn't treat your books and magazines

c.bookshops wouldn't deal in your books and magazines

d.other ( )

16. Does your company have a patron or voluntary contributer? If any, what percentage of the income is taken up by his or her contribution?

a.yes ( ) % b.no

17. What do you do in your company? (Answers can be plural.)

a.editorial job b.advertising business c.writing articles

d.printing job e.other ( )

18. How does your company deliver books and magazines to readers ? And what is the percentage rate of each mathod ?

a.through an agency ( ) % b.through bookshops ( ) %

c.direct mailing ( ) % d.other way ( ) ( ) %

19. Does your company consign delivery to a larger comapany ?

a.yes b.no

20. Have you ever received a subsidy ?

a.yes b.no

21. If you answer a.in No.20, how much and for what did you receive it ?

year title subsidy purpose

22. If you answer b.in No.20, why haven't you received it?

a.because you don't want one b.becaue you didn't know how to get one

c.because you were turned down d.because no subsidy is available

e.other ( )

23. Are you for or against the fact that the arts council gives subsidies to publishing companies? Why ?

a.for b.against c.not decided

reason ( )

24. What would you suggest for the improvement of the subsidiary system ?

a.an increase in money for each subsidy b.an increase of the number of subsidies c.nothing d.other ( )

25. What is your main source of income ?

a. job in your publishing company ? b. other job ( )

26. What does the job of your publishing company mean to you?

a. occupation b. side business c. hobby d. other ( )

27. What do you consider to be the most defficult point in your activity as a publisher ?

a. writers reject your requests b. not enough subscribers c. not enough writers d. unprofitable e. trouble with agencies f. trouble with bookshops g. other ( )

28. What is the main reason for your publishing acitivity?

a. personal satisfaction b. money c. other ( )

signature

date

If you send me back this questionnaire, I would be happy to send you a result of the survey when it is completed.

以上が，英国の出版社に送ったアンケートである。便宜のため，日本語による大意を以下に示す。

日本語版

アンケート

私は日本の明治大学の講師で，イギリスの小出版社もしくは独立出版社（大会社の子会社，系列会社でない出版社のこと）の活動を調べています。以下の質問に答え，私のところへ返送していただければ幸いです。

1．あなたの会社では雑誌を発行していますか。もし発行しているなら，どんな記事を載せていますか。

a．はい

（詩，小説，演劇，美術，書評，その他）

b．いいえ

〔No.1でa．を選んだ方へ〕

2．雑誌の中心は何ですか。

a．詩　b．小説　c．演劇　d．美術　e．書評　f．その他

3．一年に何度発行しますか。

a．月刊　b．隔週刊　c．季刊　d．隔月刊　e．不定期　f．その他

4．予約購読者はどれくらいいますか。（　　）

5．創刊はいつですか。平均発行部数はどれくらいですか。

年　　部数

6．広告を載せていますか。載せている場合，それは収入の何パーセントを占めますか。

a. はい（　）％　　b. いいえ

7．No.6でａと答えた方にお尋ねしますが，広告主は誰ですか（複数回答可能）。

a. 出版社　b. 書店　c. その他

8．何冊本を出版しましたか。分野別にお答えください。

a. 詩（　）　b. 小説（　）　c. 演劇（　）　d. 美術（　）

e. その他（　）

9．書籍や雑誌をどこで印刷していますか。

a. 印刷機を自社で所有している　b. 印刷会社に委託している　c. その他

10. 主としてどんな方法で，書籍や雑誌を印刷していますか。

a. 凸版活字印刷　b. オフセット　c. 写植　d. その他

11. 社員は常勤とパートそれぞれ何人いますか。

常勤（　）人

パート（　）人

12. 自分の会社を小出版社だと思いますか。

a. はい　　b. いいえ

13. 小出版社であるおもな条件とはなんでしょう。重要な順にいくつでも選んでください。

a. 資本が小さい（　）　b. 社員が少ない（　）　c. 売上が少ない（　）

d. その他（　）

14. 小出版社である利点は何ですか。重要な順にいくつでも選んでください。

a. 儲けを最重要視しなくてよい編集方針がたてられる　b. 若手の育成が可能　c. 外部からの圧力がない　d. その他

15. 小出版社が不利なのはどんな点ですか。重要な順にいくつでも選んでください。

a. 利益が上がらない　b. 取り次ぎが書籍や雑誌を扱ってくれない

c. 書店が書籍や雑誌を扱ってくれない　d. その他

16. 貴社には，後援者あるいは寄付してくれる人がいますか。いる場合，その寄付が収入の何パーセントをしめますか。

a. はい（　）%　　b. いいえ

17. あなたの会社での仕事は何ですか（複数回答可能）。

a. 編集　b. 広告　c. 記事を書く　d. 印刷　e. その他

18. 書籍や雑誌の流通はどうやっていますか。またおのおのの方法の割合はどうですか。

a. 取り次ぎを通じて（　）%　b. 書店を通じて（　）%

c. ダイレクト・メール（　）%　d. その他（　）%

19. 貴社は流通を他社に委託していますか。

a. はい　　b. いいえ

20. 貴社は補助金を受けたことがありますか。

a. はい　　b. いいえ

21. No.20でaと答えた方は，いくら何のために補助金をうけましたか。

年　　書籍・雑誌名　　補助金　　目的

22. No.20でaと答えた方は，なぜ補助金を受けたことがないのかお答えください。

a.欲しくないから　b.どうやって受けるか知らないから

c.申請が却下されたから　d.どの補助金も受ける機会がない　e.その他

23. アーツ・カウンシル（英国芸術協議会）が出版社に補助を行うことに対して賛成ですか，反対ですか。それは何故ですか。

a. 賛成　b. 反対　c. どちらとも言えない

理由（　　）

24. 補助金の改善のために，どんなことをしたらよいとお考えですか。

a. 個々の補助金を増額する　b. 補助の件数を増やす

c. なにもなし　d. その他

25. あなたの主たる収入源は何ですか。

a. 出版社での仕事　b. それ以外の仕事（　　）

26. 出版社での仕事はあなたにとってどんな意味をもっていますか。

a. 職業　b. 副業　c. 趣味　d. その他

27. 出版社としての活動で最も困難なのはどんな点でしょうか。

a. 執筆者が貴社の依頼を拒絶する　b. 予約購読者が少ない

c. 執筆者が少ない　d. 儲けがない　e. 取り次ぎとのトラブル

f. 書店とのトラブル　g. その他

28. 出版活動を続ける理由は何ですか。

a. 個人的な満足　b. 金銭　c. その他

署名

日付

もしこのアンケートを返送していただければ，この調査が完了しだい結果をお送りいたします。

以上が，アンケートの日本語訳である。

5．アンケート調査の発送先

さて，アンケートの発送先であるが，どのようにして選んだかを説明しておこう。結果からいえば，Cassell 社と The Pubilishers Association 共編の *Directory of Publishing* および Small Press Group 編の *Small Press Year Book* に拠った。両者とも，出版社の住所録と簡単な営業内容の紹介がでている。前者のほうが，より網羅的であって，大きな出版社から中小まで，約1100社が紹介されているのに対し，後者は名前の通り，小出版社のみを掲載している。この二つの住所録に拠ったのは，アンケートを発送する時点で，この二点しか利用できなかったからである。(ブリテッシュ・カウンシルの図書館にこの二冊があったので，利用した。お礼申しあげる。)僕は，この調査を計画してから，いく

かの住所録を洋書店を通じて注文したのであるが，小出版社をあつめた住所録は，やはり小出版社によって発行されており，大手出版社の本・雑誌を海外発注した時よりずっと時間がかかってしまうのだ。半年で来ればまだよいほうで，ほとんど一年近くかかり，一年以上かかって入手したものもまれではない。つまり，アンケートでも尋ねたことなのであるが，小出版社の流通に関しては，少なくとも日本からの入手は著しく不便だというとこが実証されたわけである。

Cassell 社の住所録には，後ろに分野別のインデックスがあるので，詩の項に載っている出版社90社にアンケートを送ったのだが，このインデックスは非常に正確とは言えないことがわかった。というのは，数社から，自分のところでは詩は出版していないから，このアンケートには答えられないという趣旨の手紙を受け取ったからである。あるいは，以前には詩の本を出版していたのだが，もうやめてしまったという出版社もあった。*Small Press Year Book* のほうにはそういったところは無かった。これはこちらは規模の小さいところがほとんどで，一つの分野＝詩しか扱っていないからであると思われる。

ともかく，二つの住所録からあわせて135の出版社にアンケートを送り，78通の返事をもらったのだが，そのうち12通は上に述べた理由でアンケートに答えられないという断わりの手紙である。だから，結局66通のアンケートを集計することになった。

集計しながら，自分で作成したアンケートの欠点に気がついたところもある。個々の設問に関するものは，後に述べることとして，それ以外のことでは，アンケートの最後に署名と日付を書き入れてもらったのだが，その他に被調査者の名前と住所を書いてもらう欄を設けるべきだと思った。というのは，署名からでは何という名前か全然判読出来ない場合が多々あるからだし，また，住所は出版社の住所録から分かると思っていたのだが，ここに思いがけない落し穴があったのだ。僕のほうとしては，アンケートを送った封筒の中に返信用の封筒を入れ，それに出版社名を書き入れておいたのだが，その返信用封筒を使わない人がいたのである。使わないのは一向にかまわないのだが，その上，出版

社名を書いてくれないものがあったのだ，そうなると署名のみで会社名を突き止めねばならない。幸い，Cassell 社の住所録には，個人名のインデックスがあった。ならば，署名を解読すれば出版社名がわかる。ということで，署名をああだろうかこうだろかと推測しつつ何通りかに解読して，やっと出版社名を割り出したところもあったのである。

6．アンケート調査の集計と分析・解釈

いままでに述べたような経緯をへて，66通のアンケートを集計し，それに関するこちらの分析・解釈もしくは感想を述べていこう。28の質問をしたので，一問ずつ見ていくことにする。(結果の一覧は文末に表であらわした。)

1．あなたの出版社では雑誌を発行していますか。またそれは，どんな記事を載せていますか。

66の回答を得た(以下断らない限り，66社とも回答したものとする)。「はい」と答えたのが28社。「いいえ」が38社。記事の内容は，詩と書評がもっとも多い。同じ大学の範疇に入るものだが，詩と小説と演劇の壁？は厚いらしくて，26の雑誌のうち小説をあつかうものは3誌にすぎず，演劇をあつかうのもにいたっては1誌のみ。

「会社という言葉は，私のしていることからすれば，おおげさです」という書き込みもあった。個人で詩の雑誌を発行している人からのものである。雑誌を「かつては発行していたが，今はしていない(お金が無い)」という書き込みもあった。

2．雑誌の中心は何ですか。

2～7の質問は，雑誌を出しているところだけ，則ち28社が対象となっている。20社は詩と答えているが，ここでも詩と書評と答えているところも5社ある。雑誌の柱が2本あっても，おかしくはない。

ちょっと変わったところでは，教会の雑誌を発行しているところがあった。四つの教区をまとめて，教会の出来事やその教区のニュースを載せているのだという。しかし，同時に詩集も出版しているというわけだ。また，公務員の転職のための雑誌を発行しているというところもあった。さらには，軍事専門の雑誌，仏教に関する雑誌を出しているところもあった。それぞれに，もちろん詩の本も出版しているわけである。

3．一年に何度発行しますか。

「その他」という答えが14社ともっとも多かったが，次には，「季刊」が多かった。「その他」の中には年3回とか年1回，年2回などというものがあった。

4．予約購読者はどれくらいいますか。

これには二つの山があり，100～200というところと，500前後が多かった。ただし0という答えや2000という答えもあった。

5．創刊はいつですか。平均発行部数はどれくらいですか。

創刊については，80年代が13社，70年代が7社，60年代が5社，50年代が1社40年代が1社，不明が1社となっている。比較的最近に創刊になったものが多いであろうことは容易に予想できたが，40年代から60年代にかけて創刊されて，生き延びているものも結構あることに驚いた。編集者のねばりづよい熱意に頭の下がる思いがする。

6．広告を載せていますか。載せている場合，それは収入の何パーセントを占めますか。

「はい」と答えたもの15社。「いいえ」は13社。広告を載せている雑誌の方がかろうじて多いのであるが，われわれが日本で見ている商業雑誌とは趣を異にするのは言うまでもない。広告は，必ずしも，経営に大きく貢献しているわけ

ではない。広告を載せているが，それは収入の０％を占めると回答しているものが３社ある。推測するに，自社と同様に小さな出版社の本や雑誌を無料で紹介しているのだと思う。アンケートにわざわざ広告主は自分自身，つまり書籍を広告しているから収入にならないと書いているものもあった。ともかく，広告収入が全体の10％以上をしめてのは，５社しかないのである。

７．広告主は誰ですか（複数回答可能）

これは複数回答であるが，11社が,「出版社」と答えており，書店を含む回答は５社に過ぎない。

「地元の商店」というのもあったが，これは先に質問２．で紹介した教会の雑誌であるから，その教区の商店が載せるのである。また「保険会社」「転職アドヴァイザー」が広告主というのは，転職のための雑誌である。

８．何冊本を出版しましたか。分野別にお答え下さい。

０冊という回答が５社あった。これは雑誌のみを発行しているということである。また10冊以下のところも13社あった。中には詩集を400冊以上も出版したところが２社あったがそれは例外に属する。出版点数の多い会社の場合，普通は詩よりも小説やその他がはるかに多く出版されている。

９．書籍や雑誌をどこで印刷していますか。

圧倒的に「印刷会社に委託している」ところが多い。印刷機を自社で所有しているのが９社。その他が４社。自分で活字をひろっている人もいることはいるのだが，個人で経営している出版社の場合は一人で何から何までこなすのだから，とてもそこまでは手がまわらないといったところかもしれない。僕自身の予想としては，もっと自分で活字を組む人が多いのかとも思ったのだが，彼等にしてみれば，手作りの過程を楽しむというよりも，詩の発表の機会を増やすことの方が大切なのであろう。

10. 主としてどんな方法で，書籍や雑誌を印刷していますか。

a. 凸版活字印刷　b. オフセット　c. 写植　d. その他

これは9の質問の回答で，印刷は印刷会社に委託しているところが多いことから，容易に推察されるように，「オフセット」と「写植」が多かった。ただし，中には，コピー使っているところもある。例えば，Association of Little Pressesという小出版社の親睦団体が発行している機関誌 *Palpi*（Poetry and Little Press Informationの略）などはタイプライターで打ったものをコピーして，それをホッチキスでとめただけのものである。われわれが教授会の時に受け取る資料のようなものだと思ってくだされば よい。ただし版形はこちらの方がこぶりである。謄写版（mimeography）というなつかしい方法のところもあったが，これは日本のように鉄筆で書くのではなくてタイプライターで原紙に打つのである。

11. 社員は常勤とパートそれぞれ何人いますか。

常勤がいないところが32社。つまり，半数近くのところでは，正社員がいないのである。われわれが会社と聞いて思いうかべるイメージとはほど遠いものだ。さらに，常勤もパートも0と答えたところが9社あった。一見，それでは誰が働いているのだと思われるかもしれない。これは，自分一人で全てを切り盛りしており，誰も雇ってはいないということなのだ。さらにパートが一人だけというのも14社あるが，質問に対する解釈の差であってもこれも本人のみとわざわざ書き込みを入れてくれた人もあった。この両者，すなわち雇用者0と答えた人とパートだけが一人と答えた人を合わせると22社になる。全体の約三分の一に相当する。このことをかんがみると，質問をむしろ「あなた以外に社員は常勤とパートそれぞれ何人いますか」とした方が曖昧さが残らなかったと思う。

常勤が10人以上のところはわずかに8社であった。

12. 自分の会社を小出版社（small press）だと思いますか。

「はい」と答えたのが47社。「いいえ」と答えた人は，自分の出版社のアイディンティティに対するこだわりを持つ人が多くいて，自分の出版社をもっと丁寧に自分で定義あるいは説明してくれた。これこそ，僕の聞きたかったことで，大変興味深い。紹介しよう。自社を独立出版社（independent press）であると考える人が二人いた。独立出版社の「独立」というのは，前述のように出版社も吸収・合併が盛んであり，親会社があったりするところも少なくないので，意味があるのだ。またある人は「小ワンマン出版社」(small one-man publisher）と答えたし，また「単なる小出版社ではなく，流通業界を兼ねており，さらに本・雑誌を売るためのイベントを企画する」というところもあった。雑誌を出しているだけだから，「会社」ではない，という人もいる。あるいはまた，「女性の共同組合（womens co-operative）で，全員が仕事を他に持っており，詩は余暇の活動の一つである」というのもあった。「中くらい」であるという答えもあった。

13. 小出版社である主な条件とは何でしょう。重要な順にいくつでも選んで下さい。

「重要な順」というこちらの要求に無理があったのか，順序をつけずに複数回答したものが大半であった。順序を付けて回答したものだけに絞ると，「資本が小さい」を筆頭にあげたものが9社で最も多く，次いで「売上が少ない」を筆頭に選んだのが6社となった。選択肢の全てを選んだ人も多い。その他としてあがっているものには，「独立性」（6社），「費やす時間の少なさ」，「補助金を受けている」，「非商業主義で，利益をあげることを優先しない」，「今までにない新しい傾向の作品を提供する」，「商業的な考慮にとらわれず，作品の質により出版する」，「ある審美観へのコミット」，「美しい印刷」，「専門的であること」，「影響力の小ささ」，「出版界での地位」，「個人の指導力」，「上質であるこ

と」などである。小出版社の肯定的側面と否定的側面の双方がでていて興味深いが，もっとも大きな執着が見られるのが，編集方針の独立性（そのために資本の独立性が必要と考える人もいるわけだ）であり，それと「非商業主義」で儲けにとらわれないといことは不可分の関係である。つまり，本当に自分あるいは自分達が出したい，出すに値すると信じるものだけを出版するという姿勢が上にあげた書き込みからひしひしと感じられた。これらの回答は当然次の質問と重なってくる。

14．小出版社である利点は何ですか。重要な順にいくつでも選んでください。

これも，全ての選択肢を選んだり，順位づけをしていないところが半数強ある。順位づけをしたなかでは，「儲けを重視しなくてよい編集方針がたてられる」を筆頭にあげたのが12社，ついで「外部からの圧力がない」が10社，「若手の育成が可能」が8社となっている。この結果を一言でくくると，小出版社は理想主義的でありうることが利点だということになろう。「その他」としてあげられたものには，「地方の作家に関心を持つ」，「新人や埋もれた詩人を発掘できる」，「文学の水準を向上させる」，「柔軟さ」，「文学への熱意」，「喜び」（大会社だと，歯車のひとつとなってしまうということだろうか），「全く新しい素材に集中できる」（この出版社は視覚的要素を多く取り込んだ詩，visual poem を出している。大出版社ではこういった冒険，前衛的な試みはしにくいということであろう），「実験と革新が可能」，「詩を大切にすること」，「新しい考えをあみだしたり革新する能力」，「少ない費用，柔軟性，新たな需要に大きな会社より鋭敏に応えられる能力，小規模のマーケットでも専門家の需要をみたせる能力」，「面白さ」，「キリスト教の本」，「上質」，「出している本が少ないので，一冊一冊を編集しプロモートするさいに個人的な関心をはらえる」などである。これを見ると，採算がとれなくてはいけないという制約が数多くのこと・可能性の芽を摘んでいるかもしれないのだなあ，という気になってくる。すくなくとも，上にあげられた性質を備えた本は僕らが注意深くさがさなければ，目に

ふれにくくなっているということが言えるわけだ。

15. 小出版社が不利なのはどんな点ですか。重要な順にいくつでも選んでください。

ここでは，選択肢の言葉使いに失敗があった。というのは，「取次が書籍や雑誌を扱ってくれない」という選択肢の中の「取次」の原文が'agency'となっているのである。僕がこの設問をつくったときには，「取次」ということで日販や東販のようなものをイメージしていたのだった。ところがちょっと調べてみるとわかるのだが，「取次」が出版流通の非常に大きな中心となっているのは日本だけのことらしいのである。日本では出版流通の三分の二は取り次ぎを介してなされるのであり，しかもそれは日販，東販の二大取引が圧倒的な存在であるのが特徴だ。東販一社で40%近いシェアを占め，東販・日販の二社合計では現在60%をこえて，70%に近づいている（註5）。日本の取り次ぎは単なる「問屋」以上のものであり，約3000の出版社と約2万の書店を結ぶ世界でも最も効率のよい物流のセンターである。他の国と較べるとそれはよくわかる。例えばイタリアでは，モンダドーリなど大手出版四社はそれぞれ独自に配給網をもっており，書店はいくつかのルートを併用しないと仕入れができない。しかるに，日本の書店は一つか二つの取り次ぎを相手にすべての出版社からの本が仕入れられるのである。またアメリカ合衆国では，取り次ぎに相当するものが全くないという。たとえば，ハーヴァード大学出版部では，世界中の2700軒の得意先のために，自分で売掛勘定の管理をしているのだ。だから，書店から注文がくると，注文書店の信用調査，在庫確認，送り状作成，品揃え・パッキング・送達，請求書作成，入金・記帳とこれだけの業務をこなさなければならないのである。さらにバングラデッシュのような途上国では，書店がいちいち出版社に足を向けるのが普通であるという（註6）。ではイギリスではどうか。イギリスには残念ながら効率的な流通システムが確立されているとは言い難い。しかし，取り次ぎというより問屋といったほうがいいものがあるにはあるのだ。ここで用語

の整理をしておくと，先に‘agency’という原文がまずいといったのは，イギリスの場合問屋なら‘wholesaler’と言うべきであったからだ。‘agency’というと‘literary agency’という芸能人のマネージャーに相当する仕事をしている人と紛らわしいのである。‘agency’と使うなら‘distribution agency’とすべきであった。イギリスの‘wholesaler’には日販や東販のようにほとんど全ての出版社を扱う網羅的かつ全国的組織がない。いくつかの中堅の‘wholesaler’には，W.H. Smith, Bertram, Bookwise, Hammicks, Gardnersなどがある。たとえばHammicksでは4,500点のハードカバーと14,000点のペーパーバックの在庫があり，Gardenersには12,500点のハードカバーと14,000点のペーパバックの在庫があるという具合だ。しかし全体では約300,000点の本が印刷されているのだから，効率的な作業を行うには不十分な在庫であるといわざるを得ない（註7）。日本の取り次ぎ，たとえば東販から書店に送り出される書籍・雑誌の梱包は一日に18万個であるという。驚異的な数字である。だから，取り次ぎには一日分の入荷品を置くだけのスペースさえない。入ってきたら順次送り出すという予定で設計されているのだ（註8）。取次の問題は，質問18とも関連する。

質問15に戻ろう。小出版社の不利な点であるが，この質問に対してもどの選択肢もまんべんなく選ばれていたので，「その他」にあがっているものを紹介する。「資本が足りない」（四社），「流通が主要な問題」（二社），「書評にとりあげられにくい」，「新聞・雑誌に無視される」（二社），「少ない部数，しかしこれは長所でもある」，「雑誌の配布には時間も費用もかかる」，「限られたマーケットで質の高いものを売る」，「他に職業がある場合には，時間がかかるのが難点」，「克服できないような不利な点はない」，「仲間うちのものになってしまう」，「ない，詩は儲からないものであり，そのことは分かっている」，「おそまつな装丁と値段の高さ」（発行部数が少ないから，割高になるのである），「資金繰りの行き詰まりに弱い」，「やることが多すぎる」などである。少人数あるいは個人の会社では金繰りが苦しいのだということがよくわかる。また，折角苦労して出版しても，雑誌や新聞の書評でなかなかとりあげられないというのもデメリッ

トであろう。しかし，不利な点はないと答えたところも10社あった。覚悟の上ということか。

16. 貴社には，後援者あるいは寄付してくれる人がいますか。

「はい」と答えたのは10社。多いとみるか少ないとみるか。約六社に一の割合である。寄付の総収入にしめるパーセンテージは10〜80までさまざまであった。

17. あなたの会社での仕事は何ですか。

「編集」を含む複数回答が圧倒的に多い。「その他」の項目としては，「すべて」(五社) が最も多く，「活字を組む」(二社)，「原稿依頼」(二社)，「管理」(二社)，「宣伝」(二社)，「専務 (managing director)」(二社)，「会計以外すべて」，「会計，原稿読み」，「経営」，「製本」，「原稿読み」，「協同組合なので仕事は協同してやる」，「販売，販売促進」，「市場調査・流通・販売 (marketing)」，「郵送」，「印刷以外のすべて」，「管理，販売，会計」，「デザイン」，「流通と販売」，「流通」，「表紙のデザイン，市場調査，流通，会計，事務的仕事」などである。日本とちがって取り次ぎが発達していないので，流通にかかわる部分の苦労が大きいようだ。日本の取り次ぎは前述のように単なる問屋ではなくて，流通や代金の回収までやってくれるから，出版社がいちいち小売の書店にたいする売掛金の請求や回収をする必要がないのである (註9)。

18. 書籍や雑誌の流通はどうやっていますか。またおのおのの割合はどうですか。

質問15と同様に，選択肢の「取り次ぎ」は，原文では'agent'となっているが，'wholesaler'あるいは'distribution agent'とすべきであった。

書籍や雑誌を，どのように読者まで届けているか，というのは出版社によってまったく異なる。「書店を通じて」が多いところもあれば，100パーセント「ダ

イレクト・メール」でというところもある。「その他」にはどんなものがあるかというと，「詩の朗読会で売る」（六社），「直接販売または個人的に売る」（六社），「著者が売ったり，朗読会で」，「ブックフェアなどのイベントで」（二社），「図書館への納入業者」，「レコード店で売る」などである。詩の場合は，イギリスでは朗読会というものが特別なものではなく，市民が参加するイベントとなっているから有力な販売ルートの一つとなりうるのであろう。「直接販売」というのには，出版者が個人的に売るというケースも含まれてる。

19．貴社は流通を他社に委託していますか。

僕が，出版社に送ったアンケート用紙は4枚からなるもので，質問19から3枚目に入るのだが，ここまでくると疲れるのか，3枚目をすっかりぬかしてしまった人が二人いた。

さて質問のほうだが，圧倒的に「いいえ」が多かった。「はい」と答えたのは12社のみ。その12社のなかにも，「米国での販売のときだけ」とか「ときどき」とか「めったにない」という限定つきのものがあった。「取り次ぎは，小出版社のものを扱おうとしない，特に詩を。」という見解を書いたものもある。小出版社の出す詩の本・雑誌というものは，少量で，回転率もよくないから，経営効率という点から，拒絶されてしまうのであろう。結局，出版社のほうでは，配送まで苦労することになる。

20．貴社は補助金を受けたことがありますか。

これは予想以上に「はい」が多かった。40社が「はい」と答えているのだ。もちろん次で見るように，回数や金額にはばらつきがあるものの，半数以上のところが，何らかの補助金を受けたことがあるというのは，日本では考えられないことである。日本の場合，学術書などで，文部省の科学研究費の助成を受けておこなう出版というのはあるが，詩集や詩の雑誌に公的な補助金が出たといのは，僕は寡聞にして知らない。

21. No.20で「はい」と答えた方は，いくら何のために補助金をうけましたか。

回答を見ているうちに，この設問では改善すべき点があるのに気がついた。補助金をどこから受けたかとう問いを含めるべきであった。アーツ・カウンシルからいくらなどと書いてくれた人もあったが，書かない人もある。補助金をだすのは，アーツ・カウンシルばかりでなく，地方公共団体その他のことがありうるのだから，お金の出所をはっきりと尋ねておいたほうがよかったと思うのである。出所を書いてくれた人だけで判断すると，アーツ・カウンシルおよびその地方支部に相当する各地方のアーツ・カウンシル（regional arts council）が多かった。地方のアーツ・カウンシルには，たとえば，北アイルランド・アーツ・カウンシルとかスコティッシュ・アーツ・カウンシルといったのがあり，それぞれ中央からの独立性をたもっているので，どれくらい文学，特に詩にたいして力をいれているかといったことは，おのおの地方アーツ・カウンシルによって異なっている。

また答え方で面白いのはいくらと聞いたときに，たとえば「£1200」と書く人と「制作費の50%」と書く人がいることである。両方を答えてくれるような問いにしたほうが良かったかもしれない。

金額としては，50ポンドというわずかのものもあるが，千数百ポンドというのが最も多い。が，なかには，4,500ポンドや6,000ポンドというところもあった。毎年というのはほとんどなくて，散発的に受けている場合が多いようだ。

目的・使い道は，詩集や雑誌の印刷・製本・郵送代というのがほとんどであったが，朗読会などのイベントのためというのもあったし，翻訳助成金や調査の助成の場合もある。またこれらとは別に，一年単位でかなりの額（40,000ポンド）を受けている出版社もある。個々の本・雑誌に対しての補助と，出版社の全体的な活動に対する補助があるわけだ。

22. No.20で「いいえ」と答えた方は，なぜ補助金を受けたことがないのかお答

え下さい。

「欲しくないから」という回答と,「申請が却下されたから」という回答が多かった。「独立性を保って，自分の意見を自由に述べたいから」というのもあった。また，補助金を受けた経験のある出版社でも，長期の補助金は却下されているという場合や，条件がつくからあまり欲しくないという人もいる。「装丁があまりに簡略だと，補助がもらいにくい」という意見を書き添えている人もあった。9年間もらい続けていたが，あまりに手法が革新的になった結果，却下されるようになったところもある。

23. アーツ・カウンシル（英国芸術協議会）が出版社に補助を行うことに賛成ですか，反対ですか。それは何故ですか。

この問題に対する答えは，なかなか「はい」,「いいえ」ではくくりきれないものだ。補助金を受けた経験の有無にかかわらず，賛成・反対のさまざまな理由がある。補助金を考えるときの立脚点は，さまざまなものがありうるので，賛成と反対の理由は，必ずしも同じ枠組みの中での発言とは限らない。それゆえ,「賛成」と「反対」は必ずしも正反対の立場とはならない。だから，「賛成」,「反対」の数よりも，その個々の理由のほうが重要であると，僕には思われる。具体例を見よう。「賛成」の理由には,「小出版社が詩をだすのには，補助を受けるか赤字を出し続けるしかない」(10社),「どこからでもお金がもらえれば有り難い」,「経済的な誘因として」,「悪しき商業的な圧力から救うため」,「芸術は共同体全体のための行為だから」,「革新的な作品を読者に届ける」,「観光客の目をひくものばかりでなく，すべての芸術が支援されるべきだ」,「学校での詩の教育はあまりにも逆効果で，一般読者は詩の雑誌を支持しようとしないから」,「必要だし，アーツ・カウンシルは何よりもそのためにあるから」,「小出版社を活性化し独立性を保たせるため」,「新しい著作には支援が必要」,「もらわない理由はない」,「新人，売れない作家の出版を助けるため」,「実験的な作品を出す出版社にとって有益だが，めったにそういうところが補助金を得て

いない」,「詩はもうけにならないし，新人を助けるから」,「困難な分野を支援する」,「芸術は文明であり，文明とヒューマニズムのためにお金はある」,「価値ある企画でもすぐには利益があがらず，資本の投下が必要なことがある」といったところだ。補助があってはじめて詩の出版がなりたつという考えが，非常に根強いことがおわかりいただけよう。詩で利益はあがらない，だから補助がなければ継続できないというわけだ。また，新人や埋もれた作家の発掘，あるいは実験的なことも売れにくいが，全体としては育成されるべきものだという見解がうかがえる。

一方，アーツ・カウンシルが補助金を出すことに反対している人もいるわけで，その理由は,「補助金の与えられた方に反対」,「自分の足でたつべきだ」(二社),「独立性のため」,「補助は（出版社に対してではなく）作家にするべきだ」,「補助金をもらわないほうが，なにを出版するかの選択に際して，より自由だ」,「適切な出版社が選ばれないから」,「１．国からお金を貰うと，官僚的な整合性を求めてしまう。２．出版社は公的な場で，本の成功を獲得せねばならない」というのもので，数としては反対のほうが少ない。反対意見を集約すると，そもそも自分のやりたいことをやるのに補助をもらうことがおかしい，という考え方と，国の金をもらうことによって意見や制約の制約をこうむるのが嫌だということの二つにまとめることが出来る。態度を保留した人のなかには,「納税者が補助すべきなのかどうか確信がもてない。テレビが，芸術や読書や考える楽しみを損なってきたので，再教育が必要である」,「とくに意見はない」,「あまりにも多くのお金が，その必要の小さい大きめの小出版社にいってしまい，小出版社のイメージを向上させるに十分でない」という人がいた。

24．補助金制度の改善のために，どんなことをしたらよいかとお考えですか。

複数回答可能である。「個々の補助金を増額する」というのが21社。「補助の件数を増やす」というのが24社。「なにもない」が７社。「その他」が17社ある。

例によって，具体的に詳しく書いてくれたひとの案・意見を紹介する。まず

「個々の補助金を増額する」に賛成の人から。「件数を増やすと，質がいくぶん落ちるのではないか」というのが一人。一方，「補助の件数を増やす」に賛成の人は，「巨額の補助金が，オペラのようなお金のかかる企画に与えられがちです。私は，補助金が広く配分されることを望みます」とのこと。

しかし，この二つに収まりきれない「その他」の意見がたくさんある。「一番重要なのは，補助を与える理由を変えること」，「いろいろなところにばらまくのではなくて，専門的な独立系出版社に特定して資金を供給する」，「決定を下す人を替える」，「イギリスの補助金を出す団体は，200くらいの雑誌や出版社を調べて，その中から選んで資金を与えねばならない。この資金を巨額にして五年間というような一定の期間にするべきだ。そうすれば前もって計画がたてられるのだ。選ばれた出版社がこんなふうに資金を与えられば，そのうちのいくつかは商業的に一本立ちできるようになるだろう。しかし，資金供与は巨額で前もって知らされるものでなければならない。そうすれば広告ができるし，現在や将来のマーケットを利することができる。現在のように，出版後に支払うのでは，出版社が慎重にならざるえないし，同時に何点も出版するというリスクを負うことができない。」「みなが共通して必要とすることをはっきりさせ，たとえば流通のための取り次ぎに補助金を出す」，「売りやすい伝統的な作品への補助を減らし，革新的なものへの補助を増やす」，「もっと親しみやすいシステムにし，地方差を減らす（いくつかの地方では私の地方よりも詩に対して気前がよい）」，「自立できるだけの資金を」，「補助金の周知徹底を。もっと応募形式を簡単に」，「もっと実験的・革新的作品に補助を」，「アーツ・カウンシルは，さまざまな小出版社に補助を配分すべきだ」，「政府の完全な改革，即ち人間のための政府を」，「入手可能な資金についての最大限の情報を」，「公平な配分」である。

アーツ・カウンシルの補助金のありかたについての希望は，このように多様で，なかには相反するものもあって，一つの方向性に集約することは出来そうにない。ただ，補助の存在を広く知らせることや，応募形式の簡略化などは努

力次第で改善の余地があるかもしれない。アーツ・カウンシル自身の補助金に対する考えは後に詳しく紹介する。

25. あなたの主たる収入源は何ですか。

プライベートのことなので，聞きにくい。何故こんなことを尋ねたかというと，そもそも出版が専業の人がどの程度おり，副業や趣味でしている人がどれくらいいるかを知りたかったのと，副業や趣味でやっている人の本職は何であるかに興味があったのだ。「聞きにくいことは後ろの方にもってこい」という社会学の教科書の忠告に従って，アンケート全体の終わり近くにもってきたのである。

結果は，「出版社での仕事」が主たる収入のところが20。「それ以外」のところが39。当然のことながら，働いている人数（質問11参照）が多いところでは専業の確率が高い。「その他」には何があるかというと，「教師」（五社），「個人資本と貯金」，「収入なし」（二社），「地方自治体」（二社），「校長のときの年金」，「詩人，パフォーマー」，「稀覯本の書店」，「書店と出版社」，「書店」，「執筆，パフォーマンス，講習会」，「セールス」，「個人的収入」，「退職年金」（三社），「主婦」，「図書館司書」，「コンピュータ・アナリスト」，「牧師」，「執筆」（四社）「貯金とささやかなアルバイト」，「精神病院の看護人」，「保険会社の代理店」などだ。大きくわけると，教師や公務員のような現役の職についてる人と，年金をもらったり，貯金で生活して今は勤めていない人がいる。またあるいは，書店や作家のように，本業と出版が密接に結びついている場合と，そうでない場合というふうにも分けられよう。

26. 出版での仕事はあなたにとってどんな意味をもっていますか。

この問いも，こちらとしては便宜的に「職業」，「副業」，「趣味」，「その他」という選択肢をもうけたが，こういう分類にうまくあてはまらない人もいるということは最初から予想していた。

結果は「職業」と答えたのが23人。「副業」が５人。「趣味」が８人。「生涯の趣味」,「自分ではどうにもならず，一生を支配するようになった趣味」と書き加えている人もいた。「副業」でもあり「趣味」でもあると考えた人が２人。「職業」でもあり「趣味」でもあるという人が２人。「その他」は17人で，具体的には,「必要なこと」,「独立系の詩出版という表現」,「自分が読みたいと思った詩を出版し，ある種の作品の可能性を発展させるため」,「非常に大切」,「情熱」,「商業的出版社によって出されない詩を出版するという活力のもと」,「愛の仕事」,「天職」（三人）,「主要出版社が手をつけようとしない類の文学，つまり非商業的文学を促進するため」,「献身的行為」,「新しい作品や企画を促進する機関」,「責任請負人」,「コミットするのが詩」,「趣味として始めたが，いまや一つの理想を実現するためである。その理想とは，イギリスに出来るだけ短期間にでるだけ多くの国際的な文学をもたらすこと――ほとんどは詩の翻訳である」,「生きる理由」,「自分自身が詩人として，芸術をいきいきさせ，新人や埋もれた詩人を励まし，印刷技術を楽しむ」（この出版社は，出版者である詩人が活字をひろっているのだ）といったものである。「その他」の回答からは，経済的価値とは異なった別の価値を追求する人達の姿がおのづと浮かび上がってくる。

27．出版社としての活動で最も困難なのはどんな点でしょうか。

複数回答が多かったので，個々の項目を何人が選んだかを述べる。（だから合計すれば会社の数より多くなってしまう）。「執筆が貴社の依頼を拒絶する」が３社。案外少ない。「予約購読者が少ない」が13社。これは経営基盤が安定しないし，読者が少ないということを意味しているから張り合いも悪かろう。「執筆者がすくない」が５社。この中には「すぐれた執筆者がすくない」という人もいた。「儲けがない」は12社。これは数のうえでも「予約購読者がすくない」と近いが両方挙げている人も結構あった。「取り次ぎとのトラブル」は３社。「書店とのトラブル」は15社。案外多い。小出版社の場合，取り次ぎを通さずに，

読者に直接郵送するか，書店に送るという形態が多いのでトラブルも書店との間に起こりがちなのであろう。実際，「その他」のところで「報奨金付きの大出版社の本と競争するのは大変だ」と書いている人がいた。「その他」が25社。具体的に紹介する。「公共の団体とのトラブル」，「一番つらい仕事は，印刷屋に出すタイプ原稿を作成すること」(投稿者が手書きの原稿を渡すのであろう)，「余りに多くの作者，足りない読者」，「流通」（3社)，「原稿を読むこと」，「依頼していない不適当な作品を大量に受け取ること」，「補助金の欠如」，「やりたいことの全てをする時間がない」，「今以上にする時間と金がない」，「時間がない」，「家でも働いてしまう，止まらなくなってしまう」，「編集／制作に時間を費やし，本の販売促進の時間がない」，「働き過ぎ」（二社)，「あまり少ない働き手にあまりに多い仕事」，「お金」，「限られた財源」，「マーケティング」，「市場動向を読むこと」，「新しい動向を見分け利用すること」，「公共支出の削減」（たぶん，図書館の予算が減ってしまうのが直接的にひびくのだと思う)，「報奨金付きの大出版社と競争して本屋に本をおいてもらうこと」，「一人半では生涯が限られる」，「俗物根性」，「読者が足りない！」など。なかには「答えられない。これらのことは私にとって悩みの種ではない」というのもあった。「悩みがない」人は例外として，困難な点というのは，原稿読みも含めて仕事が多すぎること，読者が十分いないこと，本屋を含めた流通面の不都合にまとめることが出来るかもしれない。アンケート作成時の漠然たる予想とは違って作家が足りないということはないのだ。むしろ読む人・買う人が足りなくて困っているのである。

28. 出版活動を続ける理由は何ですか。

これは「個人的な満足」と答えた人が多く32人いた。また「個人的満足」と「金銭」の両方であると答えた人が5人。「個人的満足」と「その他」という人が6人。「金銭」と答えた人が4人。「その他」が13人。「その他」の具体例を見よう。「私は出版を思想を普及させる手段と考えている」，「仏教を普及させるため」，「コーンウォール文化の広い分野を反映させた一連のコーンウォールの本

――言語,歴史,文学,音楽,鉱山工学など――をつくるため」,「バハイ教(Baha'i)教団のため」,「作家活動の促進」,「キリスト教の理想」,「天職だから」,「少数者の言語（スコットランドのゲール語）の本，とくに今まで無視されていた子供向けの本をつくる」,「詩へのコミット」,「実験的，革新的，非主流の作品を入手可能にするのはどうしても必要だ」,「芸術的なもの」,「出版社で働いてきて，印刷の美しい本がつくりたくなった――手作りの紙に印刷し，職人が製本し，リトグラフかエッチングか木版画の挿絵をつけた本である」,「新人や埋もれた作家の作品を出版するため」,「需要を充たす」,「公的な出版網の外で働き，過小評価されたり評価されていない詩人の新しい革新的な作品を出版する」,「詩への信念」,「世界中の詩人のためにきずなと踏み台となるものを築きたい」,「新しい作品を印刷する喜び」,「同時代人との結びつき」,「必要なこと」である。

大出版社があつかわないさまざまな意味での新しい詩を出版したいという人，地方に根差した本を出版したい人，宗教的な活動の一環として出版にたずさわる人，さまざまである。じかし出版というのが，ひろい意味での思想を伝達する商品であるため，概して，ある思いが込められていることが他の商品に較べて多いのは当然と言えよう。

6．アーツ・カウンシルの補助に関する方針

これまでイギリスの小出版社に関して僕が実施したアンケート調査とその結果をみてきた。このなかで，いくつかの質問は，出版社に対する補助金に関するものであった。イギリスでは，出版社や著者，あるいは両者に関係するイベント（詩の朗読会や文学祭など）に対して，アーツ・カウンシルをはじめとする様々な公的機関によって補助がなされているのである。補助金を出しているのはアーツ・カウンシルのみではないが，最も代表的な機関であるのでその方針をここではとりあげ紹介しよう。アーツ・カウンシルが政府の機関であるためか，出版社の側からは，補助金の申請の仕方が煩雑で官僚的だなどという批

判もあった。ただし，アーツ・カウンシルの活動に対しては，政府がお金を出すが，運営は自主的で自由なものであり，政府は口をはさまない。その点が，他の分野の補助金とは大きく異なる点である。

アーツ・カウンシルの方針については，直接アーツ・カウンシルに手紙で問うてみた。筆者の質問に文学担当の方が答えてくれたので，以下に質問とその答え，筆者のコメントを記す。(筆者のコメントと区別するため，アーツ・カウンシル当局者の回答は鉤かっこにいれた)。

1．詩を出版する出版社への補助金に関する基本方針は何ですか。

「イギリス・アーツ・カウンシル，北アイルランド・アーツ・カウンシル（別の資金)，スコットランド・アーツ・カウンシルとウェールズ・アーツ・カウンシルはそれぞれ別の方針を持っています。イギリス・アーツ・カウンシルでは，二つの詩専門の出版社 (Anvil と Carcanet) に一年単位で資金を与えることやときどき個々の本の出版に資金を与えることにより，小出版社を支援しようとしています。このたび，新たに詩を活発にするためのプロジェクトを導入したところです。それはいくつかの小出版社に，商業的に成功する可能性を高めるために，三年間補助するシステムです。」

イギリス・アーツ・カウンシルとは The Arts Conucil of Great Britain でイギリス全体が対象である。他のものは地域ごとのアーツ・カウンシルで，回答にあるように独立性を持っている。最後にあげられた新制度については後述する。

2．補助金はどのようにまた誰によって決定されるのですか。

「イギリス・アーツ・カウンシルの文学諮問委員会です。これは文学の専門家（例えば作家，出版社，書店，批評家など）から成るものです。」

3．補助金を受け取った出版社の義務は何ですか。

「本を制作すること。アーツ・カウンシルの支援を銘記すること。お金を有効に使うこと」

そういえば，必ずアーツ・カウンシルが補助した本は補助を受けた旨が記されている。いや，本だけでなく雑誌，たとえば *Poetry Review* や *P N Review* の表紙裏や目次の右下には'Arts Council Funded'という文字と三角形のマークが印刷されている。書評誌の *London Review of Books* も目次のところに同じマークと'The journal is published with assistance from the Arts Council'という一文が添えられている。詩集の場合はどうか。手元にある詩集を見ると，Carcanet 社から出版された Patricia Beer の *Collected Poems* と Anvil 社から出た Carol Ann Duffy の詩集 *The Other Country* には奥付(imprint)のところにアーツ・カウンシルから経済的支援を受けたということが書いてある。ただしこちらはマークはない。(奥付と訳したが，imprint は日本とは反対に本文の前に置かれている。)

4．イギリス・アーツ・カウンシルと地方のアーツ・カウンシルの補助金制度にはなにか違いがありますか。

「イングランドにある地方のアーツ・カウンシルに相当するものは，地域芸術教会（Regional Arts Association）と言い，イギリス・アーツ・カウンシルと同じところから資金を受けています。一方，スコットランド・アーツ・カウンシルやウェールズ・アーツ・カウンシルは，それぞれイギリス・アーツ・カウンシルの一部門ですが，独立性をたもっています。おのおのの地域芸術協会やスコットランド・アーツ・カウンシルやウェールズ・アーツ・カウンシルはそれぞれ別個の資金提供の方法を持っているのです。たとえば，諮問委員会によっているところもあるし，そうでないところもあります。しかしながら，共通の方針をもった経済的にもより統合された制度へと変わろうとする動きがあります。」

地域芸術協会とアーツ・カウンシルの関係はちょっと複雑なので，歴史的な

経緯を述べておこう。アーツ・カウンシルが設立されたのは1964年であるが，これは「音楽および芸術振興協議会」(Council for the Encouragement of Music and the Arts)という第二次世界大戦中にできた組織を継承したものである。この「音楽および芸術振興協議会」は地方事務所を持っていて，プロモーション（興行の主催）の仕事をしていた。そしてその事務所は戦後アーツ・カウンシルに受け継がれたのである。しかしアーツ・カウンシルになると，仕事の中心はプロモーションから補助へと移り，52年から55年の間に地方事務所は閉鎖された。そこで地域の方で自主的につくったのが「地域芸術協会」なのである。しかし，現在はアーツ・カウンシルと地域芸術協会の結びつきが強化されつつあるというわけだ。またアーツ・カウンシルの年報によると，現在，アーツ・カウンシルと地域芸術協会の関係についての調査が進行中であるという。

5．補助金制度に関してアーツ・カウンシル側の抱える問題は何ですか。

「今の予算では支援しきれないほどの申請があるということです。一年に二，三点しか本を出さない出版社を助けることは出来ないのです。また，質の判断というのは常に難しい問題です。」

予算に関しては，アーツ・カウンシルの年報によれば，このところイギリスのインフレ率の高さで予算の増額が帳消しになってしまっているという問題がある。

以上が，こちらの質問とそれに対するアーツ・カウンシル当局者の回答である。もちろん，アーツ・カウンシルの仕事は文学に限ったものではなく，文学というのは，美術，舞踊，演劇，映画・ヴィデオ・放送，文学，音楽，写真といった七部門の一つにすぎない。文学に限っても，決して出版社に対してのみ補助を行っているのではなく，Poetry Society や Book Trust (National Book League) のような非商業的団体に対するもの，文学雑誌に対するもの，作家に対するもの，出版社に対するもの，さまざまプロジェクトに対するもの，

翻訳に対するもの，少数民族のためのもの，と多様である。

だから，一人の詩人，あるいは出版社をめぐってなされるアーツ・カウンシルからの経済的支援のチャンネルは一つではないのだ。たとえば，アンケートに手紙を添えてくれた詩人兼出版者 John Glenday の例をみよう。彼はスコットランドに住んでいるが，詩の原稿はイングランド南西部の Cornwall の出版社 Peterloo Poets という出版社が引き受けた。その結果，この本は補助金を南西芸術協会（地域芸術協会の一つ）から受け，また出版社はコーンウォル地域協議会からも補助を受けている。この詩集は出版されると，スコットランド・アーツ・カウンシル賞をうけ，賞金は詩人に対して次作を支援するために与えられた。彼は，アーツ・カウンシルの支援がなければ，自分は詩人として出版されなかったろうし，他の詩作品をさらに自分で出版することはなかったろう，と述べている。

またアーツ・カウンシルは作家がそれまでの仕事を一時やめ，執筆に専念できるように補助金を与える場合もある。また作家のリストである作家登録簿(Writers Register)を持っていて，登録されている作家が詩の朗読会に登場したり，講演したりする場合には報酬の半分と旅費をアーツ・カウンシルが支払っているのである。あるいは大学や町に住む'Writer in Residence'に対しても，通常，詩人への報酬の半額を補助しているのである。

アーツ・カウンシルというのはイギリスの制度であり，アメリカ合衆国ではこれに対応する制度は無い。アメリカでは90%以上は個人の寄付によってまかなわれているのだ。それに対しイギリスでは，公的な資金と民間の資金の比率は約5対1で公的なものが多く，民間のうち個人は無視しうるほど少ないという（註10)。しかしアーツ・カウンシルとしては，この個人による寄付をこれから増やしていきたいと考えているようである。

この調査を進めている間に，アーツ・カウンシルに新しい制度ができた。新しい制度で，しかも小出版社に関するものだ。Arts Council Small Press Development Fund（アーツ・カウンシル小出版社発展基金）という。どんな制

度であるかというと，小出版社の競争力を増強するチャンスを与えるというもので，個々の制作コストに対する補助ではない。期間が最長三年である。三年間にわたる補助というのも今までに例がなかったらしい。補助の目的は，この援助計画の終わるまでに出版社が基盤を固め，定期的に本を出せるようになり，できるだけ効率的に流通システムにのることだという。また，経営の全面にわたって相談にのってくれる。金額が一社あたり，6,000ポンドから18,000ポンドであるが，総額が50,000ポンドであるから，この補助を受けられるのは3，4社である。応募資格の中には，独自に新しい作品の質の向上に貢献するような革新的で創造的で想像力にみちた作品を出版すること，という項目がある。

これは今年（1990年）から始まる制度である。内容を見ると，現場の小出版社の意見・要望（僕のアンケートでは質問23，24に相当する）がかなり取り入れられていることがお分りになると思う。この制度が，どの程度小出版社の一層の発展，あるいは経営基盤の強化に寄与するか，少なくともあと三年は見守るしかあるまい。

註

註1　Anthony Thwaite, *Poetry Today－A Critical Guide to British Poetry 1960－1984* (Longman, 1985), pp.130－132
Martin Booth, *British Poetry 1964－1984－Driving through the Baricades* (Routledge & Kegan Paul, 1985)

註2　Blake Morrison, 'Poetry and the Poetry Business'. *Granta*, 4 (1981)。残念ながら *Granta* という雑誌のこの号を見る機会には恵まれなかった。したがって，ここで述べていることは，スウェイトからの孫引きである。

註3　「社会調査」の理解にあたっては，福武直著『社会調査　補訂版』（岩波書店，1984年）や，福武直・松原治郎偏『社会調査法』（有斐閣，1967

年)，Peter H.Mann, *Methods of Social Investigation* (Blackwell, 1985) 等を参照した。

註4　質問紙による調査の説明は，註3に挙げた福武直・松原治郎偏『社会調査法』の48頁～53頁を自由に要約したものである。

註5　青木春雄著『現代の出版業』(日本エディタースクール出版部，昭和五十年) 250頁。

註6　箕輪成男『消費としての出版』(弓立社，昭和五十八年) 88頁，97～99頁。

註7　Peter J.Curwen *The UK Publishing Industry* (Pergamon Press, 1981)，pp. 71～73.

註8　箕輪成男『消費としての出版』90～91頁。

註9　もちろん「取り次ぎ」の存在には功罪両面がある。中小出版社の立場から，取り次ぎへの批判を展開する西谷能雄著『出版を考える』72～81頁，124～128頁。一方，取次の果たす役割を肯定的にクールにとらえる箕輪成男『消費としての出版』87～141頁。

註10　Arts Council, 44*th Annual Report and Accounts* (1989)，p. 3

番号	質問1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	a.1.5	a	f	very vew	1989 / 200	a.6	c	a.6	b.c	b.d
2	b							a.4	b	c
3	a.1	a	c	10～20	1982 / 100～200	b	—	0	b	—
4	a.1.4	a	e	250	1984 / 250	b	—	a.6	b	c
5	b							a.30 b.1	b	a.b
6	a.1	a.e	f	130	1985 / 600	a.10	a.b	a.6	b	c
7	b							b.1 e.6	b	a.b
8	b							a.47	b	c
9	b							a.32 b.1 e.6	b	c
10	a.1.5.6	a	c	2000	1943 / 2300	a.2	a.c	a.30	b	b
11	a.1.5.6	a.e.f	f	70	1986 / 400	a.5	a.c	a.6	b	b
12	a.1.5.6	a	f	550	1973 / 800	a.2	a.b	a.8 c.10 c.10	b	b
13	a.1	a	c	150	1984 / 150	b	—	0	b	c
14	a.1.4.5	a	f	100+	1978 / 500	b	—	a.5	b	b
15	b							a.40 b.1 e.4	b	b
16	b							a.75% e.25%	b	b
17	a.6	f	a	500	? / 500 ?	a.33	c	a.3 e.2	b	b
18	a.1.4	a.d	f	0	1989 / 250	a.0	a	a.1	a	d
19	b							a.7 e.1	b	b.c
20	a.1.2.5	a.b.d.f	d	400	1969 / 400	b	—	a.42 b.42	b	b.c
21	b							a.6	b	b
22	a.1	a	f	120	1979 / 300	b	—	0	b	a
23	a.1	a.f	a	120	1987 / 120	b	—	e.3	c	d
24	a.1.5	a.e	f	200	1966 / 300	a0.5	a	0	b	b
25	b							a.82 b.1 e.1	b	a
26	a.1.6	a	f	300	1987 / 500	b	—	a.12	b	b
27	b							a.20	a	a
28	a.1	a	f	0	1974 / 500	a.0	a	0	b	b
29	a.1.2.4.5.6	e	e	0	1981 / 500	b	—	a－60 b－5 f－2		b.c
30	a.6	f	d	2000+	1986 / 2000+	a.15	c	a.3 e.10	a.b	d.b
31	b							a.3 e.1	b	b
32	b							a.50	b	b
33	a.1.4.6	a.d	e	0	1954 1971 / 500	b	—	a.430 e.14	a	d
34	a.1.5	a.e	f	100	1980 / 300	b	—	a.18	b	b

番号	質問1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
35	b							a.5 d.1 b.3 e.140 c.1	b	b・c
36	b							a.75 d.5 b.40 e.250 c.5	b	c
37	b							a.150 d.4 b.5 c.2	b	b
38	b							a.25 d.15 b.200 e.150 c.5	b	b
39	a 1・5	a・e	d	1200	1972 / 1200	a・5	a	a.400 d.6 b.100 e.250 c.5	b	b・c
40	b							a.8 d.5 b.45 e.150 new year	b	b・c
41	b							a-1 e-30 This year	b	c
42	b							a-40	b	c
43	b							a-33 c-2 e-3	b	b
44	b							a-45 b-2	(a)b	b.d
45	b							a-9 d-29 b-60 e 52 c 11	b	b.c
46	b							b 350 e 100	b	c
47	b							a-9 b-5 c-1	b	b
48	a・1.5・6	f	e	100 ～200	1987 / 100 ～200	b	—	a-3 e-69	c	d
49	b							a b e	b	c
50	b							a-4 e-27	a	b
51	b							e-15	c	c
52	b							a-100	a	a
53	b							a-80 c-90 e-175	a(b)	b・c
54	b							e-6	b	c
55	b							a-6 e-60 b-2 d-2(1989)	b	c
56	b							a-12 e-1000 d-4 (a year)	b	b・c
57	a・6	f	f	800	1986 / 4500	a・35	b・c	a-6 e-80	a	b・c
58	a・1・5・6	a	c	400	1965 / 800	a・5	a・b	a-60 e-25 b-5 d-2	b	b
59	b							a-2 e 150 b-5 c-2	c	d.2
60	b							a-10 e 100 b-100 d-5	b	c
61	b							a-20 d-2 b-2 e 300 c-20	b	b・c
62	b							a-6 d.5 b-4 e-140 c 3	b	b・c
63	a・5・6	f	c	400	1968 / 2000	a・25	a・b・c	a-2 e-45	b	b
64	b							a-6 e.200 b.200 d-6	b	b・c
65	a	a.e	f	100	1970 / 350	a・10	a	a-30 e-5	c	d
66	a 1・2・3 5	a・b f	f	1000	1969 / 1500	b		a-12 d-3 b-25 c-4 e-25	b	b・c

番号	質問 11	12	13	14	15	16	17	18
1	p 2	a.b	a−b.c	a−c	a.b.c	a.50	a.b.e	b-50 c-20 d-30
2	p 2	a	a.b.c	b−a−d	c.d	a.50	a.b.e	b-30 c-20 d-50
3	p 1	a	c−a−b	b−c−a	a. c	a-10	everything	c-70
4	p 2~3	a	d	d−b−c−a	b	b	a.b.e	b-20 c-30 d-50
5	p 1	a	d	d	d	b	a.d	a 33 b 33 c 33
6	f 0 p 0	a	a.b.c	a.b.c	b.c	b	a.b.e	a b c
7	f 2	a	a−c−b	a−c	a	b	ab	b 30 d
8	p 4	a	d	d	c	a-80	a.b.c.e	d-100
9	f 2	a	a−c−b	a	c−b	b	e	b-70 c-20 d-10
10	f 1 p 1	a	a.d	b	a	b	a.b	letter
11	p 4	a	a.b.c.d	a.b.d	b.d	a.10	a.b	b-30 c-20 d-50
12	f 0 p 0	a	a.c.d	a.b.c.d	b.c	b	a	a 5 b-5 c-80 d 10
13	f 0 p 0	a	a−c−d	all	all	b	a.d	c-100
14	f 0 p 0	a	a.c.d	all	c	b	a.d	c
15	p 1	a	a.b.c.d	a.b.c.d	a.c.d	b	a	a 37 c 10 d 53
16	p 1	a	d−b−c−a	c−a−b−d	d	b	everything	b−50 c 50
17	p 1	b	b−a−c	c−a	c	b	a.b.c	d
18	p 1	b	a.b	a.b.c.d	−	b	a.d.e	b.5 c.20 d.85
19	p 4	b	d	a.c	d	b	a.b.c.d	a−15 b−62 c−23
20	f 0 p 0	a	a.b.c	a.b.c	a.d	b	everything	b c
21	f 0 p 0	a	a−b−c	b−c−a	c−b−a	a−20	a.b.c	b.25 c.25 d.50
22	p several.	a	c−a−b	b−c−a	a−c	b	a	b−50 c−50
23	f 0 p 0	a	d	a.b.c	b.c	b	ac	c−99
24	f 0 p 0	b	a.b.c	a.b.d	a.b	b	a.b.c.d	c−100
25	f 1 p 1~2	a	c−b	b−c−a	c−b−a	b	a.b.c.e	b−40 c−40 d−20
26	p 1	a	b−a−c	a−b	b−c−a	b	a	b−25 c−75
27	f 2	a	a−b−c−d	a−c	a−b−c	b	a·d	c−80 d−20
28	p 1	a	a−b	c−b−a	b−c−a	b	a·b	a b c
29	f 1	b	a	a−b−c	a	b	a·b	b−60 c−40
30	f 2 p 1	a	a−b−c−d	c−a−b	d−b−c−a	b	a,b.c.e	b−5 c−93 d−2
31	f 1	a	b−a−c	a−b−c	a−c−b	b	a	b−5 c−90 d−5
32	f 1 p 1	a	c−b−a	a−c−b	c−b−a	b	a.b.c	c−100
33	p 1	a	a.b	a.b.c.d	−	b	a.d.e	b−10 d−70 c−20
34	f 0 p 0	b	all	b−a−c−d	c−a	b	e	c−b−d

番号	質問11	12	13	14	15	16	17	18
35	f 4	a	a.b.c.d	b.c	b.c	b	a.b.e	b c
36	f 7 P 2	a	b−a	a−b−c	a	a−10	e	b. 35 c. 15 d. 50
37	f 4	b	b−a−c	a−b	b−c	b	e	b. 50 c. 10 d. 40
38	f 7 P 2	b	—	—	—	b	e	b. 100
39	f 4	b	d	b	d	a	a.b.c.d.e	a b c
40	—	b	c−a−b	b−c−a	a−c−b	b	a	b
41	f30P20	a	a.b	c	d	b	a	a. 15 b. 85
42	P 7	a	b−a−c	b−c−a	—	a. 0	a	b. 30 c. 70
43	P 1	b	c.d	—	b.c	b	everything	a b c
44	P 1	a	a−b−c	c−b−a	c−a−b	b	a	b. 60 c. 40
45	f 7 P 2	b	c−a−b	c−a	—	b	b	b. 85 c. 15
46	f 30P 5	b	b	c	a.b.c	b	c	b d
47	f 3	a	a.b	b.c	—	a. 65	a	a. 47 b. 33 c. 20
48	P 1	a	d−a−c−b	c−d−b−a	a.d	b	a.b.c.d.e	b. 50〜60 c. 40〜50
49	f 1	a	a.b.d	a.c.d	—	—	a.b	a. 13 b. 35
50	f 1 P 1	a	a	a.c	a	b	a.b.c.d.e	b. 90 c. 10
51	f 1000 P 500	b	a.b.c	a	b.c.d	b	a	b. 70 c. 30
52	f 0	a	d	a.b.c.d	—	b	everything	b. 30 c. 60 b. 10
53	f 6 P 2	a	a.b	d−c−b−a	b	b	a.d	b. 50 c. 50
54	f 36P 2	b	c	c−b	—	b	a.b.d	a. 5 b. 10 c. 75 d. 10
55	f 7 P 2	a	a−b−c	a	c	b	a.b.c	b c
56	f 1000	b					a	b c
57	f 20	a	d	a.c	a.b	b	a.c.e	b. 70 c. 30
58	f 2	b	all	a−b	d	b	a.b.e	b. 80 c. 20
59	f 3 P 1	a	a.b	a.c	c	b	e	b. 5 c. 15 d. 80
60	f 10P 2	b	d	d	c.d	b	a	b
61	f 1 P 2	a	a.b	c−a−b	—	b	e	b. 90 c. 10
62	f 2 P 2	a	a.b	a−c−b	a	b	a.b	a. 10 b. 60 c. 30
63	f 3 P10	a	c−b−a	a−b	c−a	b	a.e	a. 15 b. 80 c. 5
64	f 12P 8	a	a.b	d	d	?	e	d
65	P 1	a	d−b−a	c−b−a	d−c	b	a.b.e	b. 5 c. 80 d. 15
66	f 4 P 2	a	c	a.b	a	b	a	b

番号	質問 19	20	22	23	24	25	26	27	28
1	b	a	c	b	a.b.d	b	d	b,d,c,f,g	c
2	b	a		a	a	b	c		
3	b	b	c	a	b	b	c	g	a
4	b	b	c	a	d	b	d	e	a
5	b	a		b	d	b	d	b	a
6	b	a		a	a	b	a	b.e.f	a
7	b	b	a	b	c	b	c	d,f	a
8	b	b		b	c	b	d	f	a
9	b	b	cd	a	b	b	d	f	a
10	a	a		a	d	b	d	b.d	a
11								b.c.g	a,c
12	b	a		a	a.b	b	d	b,g	a,c
13	b	b	d	a	a.b	b	c	d,g	a,c
14									c
15	b	a		a	a,b	b	b	g	a
16	b	a		a	d	b	d	d	a,c
17	b	b	a	b	——	b		f	a
18	b	a		a	d	b	c	g	a
19	a	a		a	a.b	b	b,c	g	a
20	b	a		b	d		d	f,g	a
21	b	a		a	d	b	d	b	a
22	b	a		a	——	b	a	b	a
23	b	b	e	a	b	b	d		c
24	b	a		a	a.b	b	d	b,d	c
25	b	b	a	b	b	b	b	g	a
26	b	a		a	a.b	b	c	b	a,c
27	b	a		a	a.b	b	b	d,f	a,c
28		a		b	c	b	b.c	b,d	a,c
29	b	a		c	d	b	a	g	a
30	b	a		a	b	a	a	g	b
31	b	b	e	a	a,b	b	b	b,d.f	a
32	b	b	b,d	a	d	b	c	a,c	a
33	b	a		a	d	b	c	g	a
34	b	a		a	a	b	d	d	c

番号	質問 19	20	22	23	24	25	26	27	28
35		a		a	c	a	a	c,d,f	c
36	b	a		a	ab	a	a	d	a
37	a	a		a	a	a	a		c
38	a	a		a	c	a	a	g	b
39	a	a		a	d	b	d	g	c
40	b	b	a	a	a	a	a		
41	b'	a		a	a	a	a	g	a
42	b	b	a	c	c	b	b	f	a
43	b	a		a	a,b	b'	d	g	a
44	b	a		a	b	b	b	d	a
45	a	a		a	d	a	a	g	abc
46	b	b	a	b		a	a	g	b
47	a	a		a	b	a,b	a	N/A	a
48	b	b	ade	a	d	None	d	a	b
49	a	b	c	b		b'	a,c	g	a
50	a'	b	e	c	b	a	a	g	a,b
51	b	b	a	a	fd	a	a	g	a,b
52	b	a	a	c		b	d	b,c,f	a
53	b	b	b,d'	c	b	a	ad	f	c
54	a	a		a	d	a	a	g	a,b
55	b	b							
56	a'	a		a		a	a		a,b
57	b	b	d	a	b	b	a,c	f	a
58	a	a		a	a	a	a	b	c
59	b	b	d	c	c	a	a	a,f	c
60	b	b	a	a	b	a	d	g	a
61		a		a		a	a		a
62	b	a		a	a,b,d	b	a	g	c
63	b	b	b,d	a		b	a	g	c
64		a		a	a,b	a	a	g	c
65	b	a		c	d	b	c		
66	b	a		a				f	a

注意

(1)質問1は，雑誌にどんな記事が載っているかを問うたものだが，便宜的に詩を1，小説を2，戯曲を3，書評を4，その他を5として，この表には掲載してある。

(2)質問5は，雑誌の創刊号を問うたものだが，それが二つ記してあるのは，雑誌の名が途中で変わった場合である。

(3)質問13，14，15において，重要な順を選ぶよう求めたが，回答者の中には，優先順位をつけた人とつけぬ人があった。その区別をあらわすため，優先順位を記したものは「a－b－c」のように表し，優先順位をつけてないものは「a,b,c」というふうに表した。

(4)質問21の回答は，形式が不揃いのため省略。内容は，本文に記した。